



# パーム油ってな～に？ —企業の原材料調達—

WWF ジャパン 自然保護室森林グループ みなみ あき こ 南明紀子



カップ麺、チョコレート、ポテトチップス、アイスクリーム、パン、シャンプー、リップスティック、石鹸。

皆さんの身の回りによくあるこれらの共通点は何だと思いますか？答えは「パーム油」です。食品だけではなく、化粧品や石鹸・洗剤などの原料としても使われるパーム油は、さまざまな用途に利用できること、生産性が高く安価なことから、世界で最も消費される植物油となりました。スーパーで販売されている商品の半分にはパーム油が使われているともいわれています。

## ◆植物油の「植物」って？

パーム油なんて聞いたことがない、と思われるかもしれません。日本では法律により「植物油脂」と記載すればよいいため、菜種油、パーム油、大豆油、こめ油、とうもろこし油などを使った加工食品は、原材料名に植物油脂と書いてあります。一方、化粧品や洗剤に利用されるパーム油は、グリセリン、オレイン酸、脂肪酸といった成分名が表示されます。日本では、菜種油に続きパーム油が2番目に多く消費され（図1）、その8割以上が食用に利用されています（図2）。

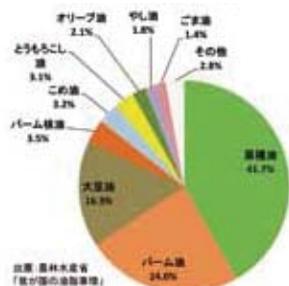


図1 日本の植物油消費量（2013年）

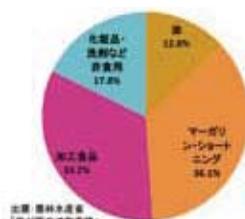


図2 パーム油・核油用途別消費量（2013年）



写真1 アブラヤシ農園 ©WWFジャパン



写真2 アブラヤシの果房 ©WWFジャパン

### ◆パーム油って？

パーム油はアブラヤシという木の実を絞った植物油です。アブラヤシはアフリカ原産のヤシ科植物ですが、種を植えてから3年ほどで実を収穫できるようになり、重さ20～40kgの小さな実がたくさん集まった果房をつけます。果房は1本の木から年間10～12個収穫でき、収穫した実からは「パーム油」が、その種からは「パーム核油」がつくれます。パーム油は主に食用に、パーム核油は化粧品や洗剤に利用されています（表1,写真1～5）。

表1 パーム油が利用される製品の例

|  |
|--|
| <p><b>【食品】</b><br/>           食用油、インスタント麺、パン、マーガリン、ショートニング、コーヒーフレッシュ、冷凍食品、ドレッシング、カレールー、フライドチキン、フライドポテト</p> |
| <p><b>【お菓子】</b><br/>           ポテトチップスなどのスナック菓子、チョコレート、クッキー、ケーキ、ドーナツ、アイスクリーム</p>                           |
| <p><b>【日用品】</b><br/>           口紅、シャンプー、ボディソープ、歯磨き、デオドラント、石鹸、洗剤</p>  |



写真3 アブラヤシの実 ©WWFジャパン  
 果肉がパーム油、種が核油に

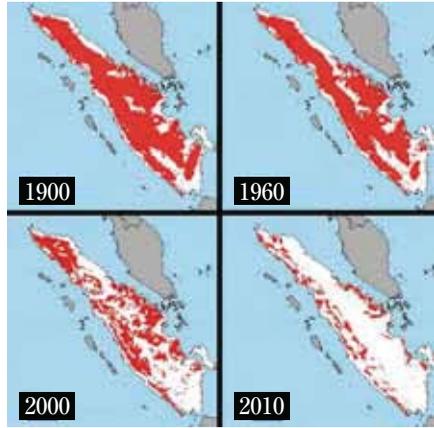


図3 スマトラ島の森林減少 ©WWF

### ◆パーム油の問題って？

2013-2014年度に世界で生産された主要な植物油は1.69億ton、そのうち約6,000万ton（36%）がパーム油です。今では大豆油を抜き世界で一番生産されるパーム油は、大半がインドネシアとマレーシアでつくられています。

アブラヤシは熱帯林の分布する赤道付近で育つため、アブラヤシ農園を開発するためにこれまで大規模な森林破壊を引き起こしてきました。インドネシアのスマトラ島では、1985年からたった30年で半分以上の森がなくなってし



写真4 収穫のようす ©WWFジャパン

まいりました(図3)。

貴重な動植物が住む豊かな森がなくなり、一面にアブラヤシが植えられた土地では、オランウータンやゾウ、トラなどの野生動物は生きていくことができません。昔から森を利用し生活していた先住民や地域コミュニティとの土地紛争も珍しくありません。また、泥炭地と呼ばれる温室効果ガスを多量に含んだ土地の開発や、伐採を目的とした火の使用は、地球温暖化にも大きく貢献してしまっています(写真6~8)。

#### ◆本当の問題って？

このままでは熱帯林は消え、貴重な野生動物も絶滅してしまうかもしれません。これまでそう考えた多くの人々がパーム油を使用している商品の不買運動などを展開してきました。しかしWWFでは、パーム油それ自体に問題があるのではなく、「どこで」「どのように」アブラヤシを栽培するかが問題だと考えています。パーム油は森林伐採の原因にもなっていますが、大豆油や菜種油など他の植物油より生産性の高い油です。もしパーム油から他の植物油に

切り替えるとする、数倍~数十倍の土地が必要となるため、さらに森がなくなってしまうかもしれません。

#### ◆解決策って？

この問題の解決を目指し、2004年、森にも人にも悪影響を与えないようにアブラヤシを栽培するための基準をもつ「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」という認証制度が設立されました(図4)。基準の中には、泥炭地、野生生物が住む森は切らずに保全すること、火の使用・強制労働の禁止、といったさまざまな項目があげられています。



図4 RSPOマーク



写真5 手作業での積み込みは重労働 ©WWFジャパン



写真6 焼かれた森 ©WWFインドネシア

こうして環境・社会面に配慮してアブラヤシを栽培する生産者から、製油会社、商社、メーカーまで、サプライチェーンすべての企業が認証を取得することで商品に使用されているパーム油が問題のない良い油である、ということを証明できる仕組みです。

### アブラヤシ生産における8つの原則

1. 透明性へのコミットメント
2. 適用法令と規則の遵守
3. 長期的な経済的・財政的実行可能性へのコミットメント
4. 生産者と搾油所による最善手法の活用
5. 環境に関する責任と自然資源および生物多様性の保全
6. 生産者や搾油所によって影響を受ける従業員、個人およびコミュニティに関する責任ある配慮
7. 新規農地の責任ある開発
8. 主要な活動分野における継続的な改善へのコミットメント



写真7 かつてはトラの住む豊かだったスマトラの森  
©WWFジャパン

### ◆消費者の力

現在、世界で2,000社以上、日本でも30社がパーム油の問題に取り組んでおり、認証されたパーム油を使用した洗剤や石鹼がスーパーに並ぶようになってきています。この取り組みをさらに拡大させるためには、皆さんが普段購入している化粧品、石鹼、加工食品にどんな原料が利用されているか、またその原料が森林破壊に繋がっていないか、ぜひ一度考えてみてください。そして、製造者に問題がないか確認することも、重要なアクションであると考えています。

日本では洗剤・石鹼から広がるこの取り組みが、化粧品業界に、そして最後には食品業界にまで広がっていくことで、少しでも熱帯林の減少を食い止めることを目指しています。

もっと詳しく知りたいと思われる方は下記WWFのサイトをご覧ください。

<http://www.wwf.or.jp/activities/2011/11/1027822.html>

冊子URL

[http://www.wwf.or.jp/activities/uptiles/palm\\_oil.pdf](http://www.wwf.or.jp/activities/uptiles/palm_oil.pdf)



写真8 森がなくなり人里にでてくるため毒殺されるゾウ  
©WWFインドネシア